

聖化

Japan Holiness Association

[発行] 日本聖化協力会

2017.9.15
No.62



聖泉連合 中京聖泉キリスト教会 牧師 秋山直光

交わる・友の・会、の楽しさ、尊さ

1988年10月に発足した東海聖化交友会は今年10月に第30回の東海聖化大会を開きます。

その節目の今年2月の総会で、前任の松浦剛先生に代わって私・秋山が新しく会長に選任されました。初代・竿代信和先生から数えると第6代目となります。

東海聖化交友会は、6月と10月の年2回の聖会開催、2月の総会と東海聖会報の年1回の発行が主な働きです。そして9名の牧師からなる役員会がこれらの運営に当たっています。もちろんこれに静岡県西部の遠州支部の働きが加わります。

そんな東海聖化交友会の特徴は、何と言ってもその和やかさにあります。(ナゴヤですから)

聖めのメッセージに真剣に向き合う中にも、肩肘張らないゆったりとした雰囲気。信徒の方々が集まる聖会もそうですし、2月の総会後に毎年もたれる牧師たちの学びと研鑽もそうです。そして役員会も、松浦前会長の下、会って語り合うこと自体が楽しく、ついつい長時間になってしまふ。

そんな交友会が、私たちの地域にあるということとが感謝なことです。

交わる・友の・会、と、キリスト教団体でこうした名前を当たり前のように掲げているというこ

とは貴重ですし、とても尊いことと思います。

『ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。』(ヘブル10・25)

一緒に集まるという、そのことが自体が大切だと感じます。自分たちの信仰の拠所を確認する上でも、実際的な励ましを互いに得るのにも、再臨のキリストの花嫁として整えられ、この地上で愛と善きわざを遂行していくためにも。

そして何より、神の聖さに与るために、聖なる神と交わりをもつこと。聖会においては、ここが一番大事な時間だろうと思います。

今は、「集まる」という自体が決して簡単ではない時代です。それは東海聖化交友会のここ何年かの課題のひとつでもあります。

集まるにはエネルギーがいります。知恵と工夫も必要。互いの違いを理解することも求められます。要は「集まる」ことはしんどいのです。

でも、楽しく・なごやかにやろうと思えます。何しろ、交友会、なのですから……

どうぞ、東海聖化交友会の働きのためにも、なお皆様のあついお祈りをお願いいたします。



- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 「聖化」の継承 神学校の取り組み … p.2-3
- 主の御像に造り変えられて (証し) …… p.4-5
- レクラーク博士紹介、書籍の案内…………… p.6
- 魅力ある聖化大会に、2018年講師 …… p.7
- 今年秋の聖化大会日程、編集後記 …… p.8

神学校の取り組み

ションと、それに基づくパネル・ディスカッションでした。「聖化」の継承のためには大切なテーマでしたので、3回の連載で、各神学校の「聖化」の取り組みを紹介していきます。



伝道者に不可欠な「聖化」 東京聖書学院

院長 錦織 寛

東京聖書学院は「聖化」を教え、その体験に導くことをとても大切なこととして考えています。

それは第一に、伝道者として立っていくときに、聖化の恵みは不可欠であると考えているからです。自分が全く主のものであることを告白し、自分の義によってではなく、神の恵みによって、変わることを告げ、主イエスの十字架の血と、御霊の注ぎによって、聖なるものとされ、生ける主に仕える力を与えられるということなしにこの牧師としての務めを全うすることはできません。

そして第二に、この「聖化」は単に牧師としての務めのために必要なだけでなく、すべてのキリスト者にとって必要な経験だからです。キリスト者は単に、救われて洗礼を受けたらそれでおしまいということではありません。神はあがなわれたご自身の民を「聖なる民」と呼び、聖なる民としてくださいました。この豊かな恵みを伝えるために、まず牧師は自らがこれを体験し、またその恵みに生き続けている必要があるのです。

では東京聖書学院ではどのようにこ

の恵みを手渡そうとしているのでしょうか。

聖化を教える科目

一年生たちは通年で学ぶ「神学概論」で、神の救いの豊かさを取り扱う救済論の中で聖化を学びます。まずキリスト教の諸教理の中で、特に神が備えてくださっている救いの豊かさにおいて、「聖化」がどんなに大切なものであるかを学びます。

二年生以降に「聖化論」「ウエスレー神学」の授業があります。聖化論では、日本におけるきよめ派の歩みを概観すると共に、聖書のメッセージとして聖化の恵みが何であるのかを確認します。またウエスレー神学では、ジョン・ウエスレーがその時代の中で何を伝えようとしたのかを整理し、また今の時代に私たちが受け継ぐべきメッセージを確認していきます。

これらのクラスの学びは、単に学問としての学びというだけでなく、自分の与えられている信仰の恵み、そのきよめの体験が何であったのかを整理する時でもあります。またいろいろな誤解や極端な見解は知識としても修正し、自分が与えられた恵みを、分かりやす

く人々に伝えるためにもとても大切です。

クラス以外で聖化への取り組み

毎年5月には集中して聖化のメッセージを聴き、御言に取り組み「ホーリーネス強調週間」があり、夏期伝道中には各地の聖会に出席することが期待されています。また九月のリトリートの際にも聖会が開かれます。また、修養生たちがいろいろな問題にぶつかるときに、舎監や学生監、教師たちを通して、指導を受けます。様々な挫折の体験は聖化を求める大切なきっかけになります。

聖化を教える時の課題と展望

修養生たちは在学中に、聖化の恵みを体験し、そのことを自分なりに整理して、証しできるようにするということが期待されています。

卒業後も、最近では牧師たちの間で、聖会説教の学びの時が積み重ねられています。聖書学院を卒業したら聖化も卒業、または聖化は免許皆伝ということではなく、積極的に恵みを求めて聖会に出席し続け、それを習慣とすることはもちろんのこと、引き続き、研鑽を積み続けるようにと願っています。

特集 「聖化」の継承

今年3月6日の日本聖化協力会評議会の折りに、「聖化フォーラム」が行われました。内容は、各神学校において聖化をどのように教えているかのプレゼンター



関西聖書神学校 「臨在信仰」に生きる聖化

校長 鎌野 直人

関西聖書神学校における聖化の学びは、包括的なものとなるようにカリキュラムを構成しています。それは、本校の教育方針の三つの柱のひとつとして、「聖書的きよめと人格教育を強調した靈性の養成」があり、「神の絶大な恵みを経験し、聖書的きよめを日々の生活の中で生き、それぞれに与えられた召命に従う主のしもべを寮生活を通して養成」することを本校の教育の第一のものとしているからです。それゆえに、学生には、「みことばと祈りを神学校生活の中心に置き、礼拝、早天祈祷会、定例祈祷会を重んじ」、「みことばを通して働かれる聖霊の恵みを喜んで受け入れて、神の国の働きへの主の召命に応える者となり」、「下級生の時は神に従順であることをまず学び、上級生になるにつれてしもべとして他者を導くリーダーシップを身につけ」、「他者との関わりの中で自分の弱さを知り、また他者の弱さを受け入れつつ、恵みの神がお互いに備えてくださった賜物を見だし、それを積極的に用い合う謙遜を学び続け」るように求めています。

授業では、本校のルーツである二人

の宣教師についての学び（「バックストン・ウィルクス研究」）、靈性と祈りの知的かつ実践的な学び（「靈性と祈り」）、聖化そのもののさまざまな著書（カルヴァン、ウエスレー、小島伊助、工藤弘雄）を通しての学び（「聖化論」）で具体的かつ集中的に聖化について取り組んでいます。さらに、3年終了までに旧新約聖書を通読し、毎日、定形のノートに記録し、提出することを卒業の要件としています。聖書を読み、教えられ、祈ることが、生活のリズムとなり、個人的なデポジションを確立するためです。

日々の生活においては、毎日の早天祈祷会と毎週の定例祈祷会でのみことばと祈りと証しを通して、各自の信仰と靈性を確認しています。神からの語りかけに対して祈りによって応答することを重視しているからです。さらに、対人関係における聖化の姿を寮生活を通して学ぶことを大切にしています。ですから、二人部屋での生活を必須としていますし、塩屋聖会の準備等の中で対人関係の複雑さを知り、葛藤、熟考、祈祷を通して解決へと導かれていくというプロセスをそれぞれが経験で

きる機会をできるかぎり多く与えています。

なお、本校の聖化理解は、神学面ではウエスレー神学に基づいています。そして、「義認・聖化・栄化」は、信仰によって与えられる一連の神の恵みの賜物であると理解しています。聖化してくださる神への信仰がすべての原点となりますから、信仰を祈りにおいて神に求めるように導いています。さらに、聖化の転機は、その後の聖霊との継続的な交わりの出発点であり、日々の聖霊との交わりの継続を通して「全き聖化」は現実となると考えています。また、様々な品性は「聖霊の実」として、聖霊を通して与えられる側面と、みことばへの従順を通して自ら建てあげられていく側面の両者があると考えています。

なお、聖霊との交わりを「臨在信仰」と本校ではしばしば表現します。「全き聖化」は、イエス・キリストが共にいてくださることへの信頼によって実現する、つまり、対人関係から対人関係が育てられると理解しているからです。

信仰一本では生きていけない？

牧師の家庭で育った私は、幼い頃に洗礼を受け、聖書の教えや戒めを真正面から受け止め、生真面目に生きていました。やがて中学生になり、お決まりのイジメに遭うようになりました。右の頬を打たれたら左の頬を差し出すようにして、ひたすらイジメが止むようにと、毎日必死で祈りました。でも何も変わらなかったのです。

ある日の教室で、窮鼠猫を嘯むとばかりにたまりに溜まった怒りを爆発させました。イジメの中心人物をクラスの前で殴り倒したのです。あの國重が怒った、しかも喧嘩に勝った、とクラスは沸き立ち、それ以来イジメはピタッと止まりました。祈りの手では何も変わらず、その手を拳にしたら人生が拓けた。このことをきっかけに、クリスチャンとしてのアイデンティティは崩れていきました。信仰一本ではダメなのだ。世の中の評価基準にかなうものを自分の中に揃えていないと生きていけない。そう悟ったのです。

人格障害

周囲から評価されないと生きていけないという思いは高校時代に、強迫観念のように自分の心に強く湧き上がってきました。

私はその世界の専門家ではありませんが、今になって大学時代の本を引っ張り出したり（当時の専攻は発達心理と障害児心理）、また新たに購入した本を読み進めるうちに、高校時代の私は自己愛性人格障害を抱えていたのではと考えるようになりました。実際に精神科の医師

きよめの証し

主の御像へ造り変えられ



インマヌエル福岡キリスト教会 牧師

國重 潔志

に相談したわけではありませんが、その関係の本を読んで学べば学ぶほど、自分は確かにそうした人格障害を抱えていたのだと思います。

自分への評価が異様に気になり、そのことを考え出すと頭がいっぱいになり、他のことが手がつかない。自分の評価を上げるためには平気で嘘をつき、異常なほどに攻撃的で尊大、周りの人の気持ちなどほとんど気にも留めない、そんな私だったのです。そのころは、そうした自分を思春期の一コマと勝手に思い込んでいましたが、今にして思えば、むしろ人格障害を抱えていたと考えた方が当たっているように思います。

クラス編成のある4月、周囲に媚を売ってたくさんの友達を得るのですが、やがてその友達を次々に傷つけ、翌年の3月には私の周りには誰も居なくなる、そんなことと繰り返しでした。それを高校時代に3回も繰り返し返したのです。大学受験を控えた2月頃、さすがに自分の中に何か問題があると気づくようになりました。

当時の私はキリスト教信仰の素晴らしさは感じていましたが、先に述べた中学時代の苦い経験以来、宗教的に盲従するのは御免だとばかりに、今で言う自己啓発的書物や、大してわかりもしないのにフロイトやフランス実存主義文学などを読み漁り、自分を自分でしっかりと作り上げようとしていました。よく読み、よく努力し、一応聖書も読み、祈る、そうしてしっかりと自分、周囲が一目置く立派な自分になろうと悪戦苦闘していました。しかし行き着く先は、周囲から十分に評価されず、愛されもしないのを理不尽なことと考え、一人で苛立ち、

一人で焦り、一人で怒りまくり、という具合でした。

悔い改め

大学受験を目前に控え、共通一次試験に失敗し、友人も去り、高校時代に知り組んだすべてが徒労に終わりつつある現実を突きつけられることになりました。ようやく、自分で自分を何とかしようとする愚かさ気づき、自室で一人悔い改めました。

「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決まっておぼろげではありません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」(ガラテヤ六・14)

世界に対して誇れるものをなるべくたくさん身につけることで、世界から自分を愛してもらおうともがいても無駄どころか逆効果。すべてが失くなっていく中で、最後に残ったのが十字架でした。自分で自分を何とかしようともがくのはもう止めます。ただ神のみを信じてまいります。神なる主がこんな私を救い、助けてください、と祈りました。

御像へ

春になり大学生活が始まりました。当初、多くの友人が与えられましたが、またしても自分はこの人たちを傷つけ去らせてしまうのではと心配していました。けれど



も、高校時代とは全く違う毎日となりました。

友人は増え続け、大学のクラスやゼミ、クラブ活動やバイトなど、さまざまな活動に加わりましたが、信じられないほど、すべてうまくいきました。問題が全く無かったわけではありましたが、失敗したらすぐに悔い改め、罪を積み残さないよう心がけていました。

所詮自分はどうしようもない人間なので、ジタバタするのはもう懲り懲り。けれども神はそんな自分を愛し、十字架を通して拾いあげてくださったのだから、その十字架に寄りすがりながら、一つひとつ神の御心を探りながら取り組み、神は自分を変えてくださると実感しました。今にして思えば、自分であぐくのを止め、神の恵みに依り頼むことを通して、恵みによって人格障害が少しずつ癒やされていったのだと思います。

米国のホーリネス運動において多大な影響を与えたフイービー・パーマーの名著『ホーリネスの道』があります。その本の中で、パーマーは自分がどのようにきよめの道を歩み、成熟しているかを考えることは傲慢への罠であり、ただ毎瞬、神の側を選び続けることだけに集中せよ、と述べています。心からその通りだと思えます。またウエスレーの著書と、ウエスレーをていねいに説明した『ウエスレーの神学』(藤本満著)は、私のきよめ理解を大いに助けてくれました。

自分で自分を救おうとするのではなく、ただ単純に神に依り頼むことを繰り返していく中で、罪深い私を御像へと癒やしてくださいる主の恵みを体験できたことは、何ものにも代えがたい感謝な出来事でした。

2017年秋の聖化大会 講師ご紹介

ダイアン・レクラーク博士

ダイアン・レクラーク博士 (Dr. Diane Leclerc) は、ホーリネスの伝統を受け継ぐ米国ノースウェスト・ナザレン大学 (Northwest Nazarene University) の教授をされ、歴史神学、特にホーリネス運動やフィーベ・パーマーの研究者として著名な器です。また各地の聖会などで奉仕をされ、ウェスレアン神学会 (Wesleyan Theological Society) の会長の職を果たされた経歴もお持ちです。これまでに2つの教会で牧会をされ、その後教職の按手を受けられました。ドルー大学で歴史神学の研究で哲学博士号を取得され、大学で15年余り教鞭をとられました。

現在、米国アイダホ州にご主人、息子さんとお住まいです。2010年に *Discovering Christian Holiness: Wesleyan Theology* を出版されました。博士は、2012年の聖化大会にお迎えしたフロイド・カニンガム博士の妹さんでもあります。



2012年 聖化大会講演集

ホーリネスを 生きる神の民

フロイド・カニンガム著

定価(本体1300円+税)

カニンガム博士のセミナーの講演を纏めました。内容は、ホーリネス運動の過去から現在、将来までを展望し、私たちの前に新たな地平を開いて見せてくれます。特にホーリネス運動の中で活躍した女性たちに焦点を当てた、精緻な論述が目を引きまします。

.....

続々と、電子書籍化を進めます！ Amazon Kindle ストアで発売中です



電子書籍化第一弾、「エマオの道で」を販売中です。昨年刊行された「聖化の説教 旧約編I」「聖化の説教 旧約編II」「聖化の説教 新約編」もすでに電子書籍として販売しています。Amazon Kindle ストアで検索してください。

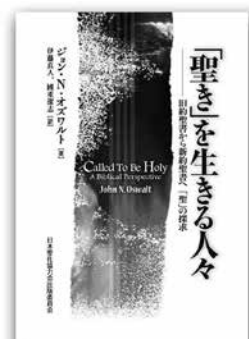
30周年記念大会講師の著書

「聖き」を生きる人々

ジョン・N・オズワルト著

旧約聖書を専門とする聖書学者の著者が、聖書全体が語る聖化について論じています。旧約聖書の聖霊論を、キリストを軸にまとめ、それに基づいて聖書の聖化を論じます。旧約・新約の聖霊論と、そこから語られる聖化のメッセージは恵みに満ちたものです。

定価(本体2500円+税)



直次郎
がんばり

だれのためのガンバリなの? ©富無尽蔵

魅力ある聖化大会に 2
青年たちこそ聖化の担い手 春の青年大会

主に従って、旅に出よう!

去る5月28日(日)に、チャーチ・オブ・ゴッド川崎教会にて春の青年大会が行われました。テーマは「My Jesus Journey」さあ、旅に出よう!」。講師は米国ワールド・ゴスペル・ミッション宣教師のザック・マツ師でした。当日は80名ほどの青年たちが集まり、ザック宣教師を通してのメッセージに耳を傾け、励まされていきました。

私たちが生きる道は決して楽な道ばかりではなく、様々な険しい道もある。それこそ、けもの道のような、切り開かれていない道もたくさんある。しかしそこにはいつもイエスさまが共にいてくださって、その道を切り開いてくださり、私たちはその後を追って、た



だイエスさまにひたすらについて行くこと、そして福音を伝えるために一人ひとりが遣わされていることが語られました。宣教師としての経験から語られたとても貴重なメッセージでした。これからも青年大会では、青年たちの抱えがちな現状に対して寄り添いつつ、しかし変わることのない聖化の恵みを伝えていきたいと願っています。

2018年秋の聖化大会 講師は私たちの中から

日本人の講師で行う聖化大会 地域の特徴を生かした大会に



今年には宗教改革500年の記念の年に当たります。様々な記念の行事や企画が計画されています。そうした中で、歴史神学が専門のダイアン・レクラーク先生をお迎えできることは、摂理であったと感じています。私たちも宗教改革から流れ出たプロテスタントの伝統に与り、敬虔主義や信仰復興運動の息吹を受けながら、いま教会の建て上げに勤しんでおります。過去の恵みを学び、それを未来に生かしていきたいと思えます。

さて、明年は外来の講師をお招きせず、私たちの仲間である日本人の講師に聖化の説教を語っていただきます。すでに各地の交友会では、そうした聖会が重ねられました。私たちの周りにはすばらしい説教者が揃っています。日本のクリスチャンの欠けや弱さをよく知って、そこにとどのような聖霊の御業がなされるか、身近な器ならではの行き届いたメッセージを期待しています。

2017年秋に開催される聖化大会

大会名	期日	講師
宮城聖化大会	9/19	石田学師
山形聖化大会	9/23	竿代照夫師
東海聖化大会	10/19~20	ダイアン・レクラーク師・松浦剛師
関東聖化大会	10/15~17	ダイアン・レクラーク師
ウェスレーに学ぶ会	10/20	ダイアン・レクラーク師
岡山聖化大会	10/22	ダイアン・レクラーク師
九州聖化大会	10/24	ダイアン・レクラーク師

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページ、Facebook、Twitter をご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。http://jha.christ.gr.jp/

JHA 創立 30 周年を記念する画期的な刊行事業！

聖化の説教 全3巻 (旧約編2巻、新約編1巻)



旧約編 I

定価 1,500 円+税

創世記からエステル記まで、聖書の英雄的な行動や惨めな失敗、信仰の輝きが…。



旧約編 II

定価 1,500 円+税

ヨブ記からマラキ書まで、知恵文学、詩歌、預言者によって語り継がれた聖化の恵み。



新約編

定価 1,800 円+税

新約聖書の各巻から 25 の説教で聖化の恵みに触れることができる待望の説教集。

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教団、教会、個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを私たちの心に、そして教会に、さらにお住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化交友会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

じっくりと聖書を学ぶために

365 日の霊想 デニス・F・キンロー著

エマオの道で

世界でも屈指の説教者であったデニス・キンロー博士の著書です。365 日の恵みが満載です。短い聖句が取り上げられ、歴史的なエピソードや著者の体験、聖書の物語など、霊想が綴られています。



定価 3,400 円+税

編集後記

聖化 62 号をお届けします。今回は、今年春に行われたシンポジウムを取り上げました。各神学校の先生方によるプレゼンテーションとパネル・ディスカッションでした。各神学校で、いま「聖化」がどのように教えられ、体験されているかを語っていただきました。今後 3 回にわたって二校ずつ掲

載していきます。ご期待ください。巻頭言は、東海聖化交友会の秋山直光先生です。今年 2 月、松浦剛先生からバトンタッチされました。若い世代（それほど若くはないけれど）へ担い手が出ていきます。第三世代と言うべきでしょうか。頼もしく思いながら読ませて頂きました。（矢木良雄）

聖化 No.62 2017 年 9 月 15 日発行